

## 第100回 東葛しぜん観察会

### 冬芽と木肌を観てみよう！

龍門海行（柏市）

日 時：2014年3月9日（日）9時30分～12時

場 所：香澄公園（習志野市） 天気：晴

参加者：一般7名、指導員21名 担当指導員：米澤（理）・米澤（裕）・龍門

時々雲間の見える晴れの天気であり、風もほとんどなく、寒気もさほどでない観察会には、まずまずの天候であった。東葛しぜんの記念すべき100回目の観察会であったが、晩冬の公園内での観察会のためか、一般参加者が7名と少なかったのは多少残念であった。

当初3班編成を予定していたが、参加者は2班編成とし4名（夫婦2組）、3名のグループに、残り1班は指導員グループとした。新習志野駅から香澄公園へ向かい、公園入口にて準備体操をやり、公園の特徴を説明。まずは公園が緩衝公園であることに関心を示し、園内と園外での騒音の違いで、樹木が有る事の意義を体感して頂いた。観察会途中にて広場の真ん中付近に立って頂き、幅約100m×長さ約1100mの長方形になっている公園周辺状況を観察。道路側&鉄道高架側には常緑樹を植林し、遮音効果の役目を果たしている事。又、対面側（住宅地）にも常緑樹を中心に計画植林された公園である事。現在立っている中央部は落葉樹を中心に植えてあるため、ケヤキ、アキニレ、クスノキ、イチョウ等々の樹形が本来の形で観察出来る事を体感して頂いた。さて、今回は通常期ではあまり観察対象にしていない木肌（樹皮）や冬芽をターゲットに実施。まず入り口から続くトウカエデ並木や付近にあるクスノキ、サルスベリ等を目視し、直に手で触って頂き、樹皮の違い、樹木表面の温度、同じ樹木でも日の当たる面とそうでない面との温度差のある事を体験。ドウダンツツジの冬芽を手の平で触って、以外に痛いほど尖がっている事、アジサイの葉痕が何か動物の顔に見える事、モクレンの冬芽の毛皮の感触等々を観察。残念ながらトチノキの冬芽のベトベト感は、多少高い所に有り、一部の参加者しか触れられなかったのが残念であった。数本あるカワツザクラが満開であり、参加者の目を楽しませてくれた。途中でタラヨウの木があり、落ちていた葉っぱに字を書いて頂き、ハガキの木と言われる由縁を説明したところ、いたく感心されたのが印象的であった。

後半に樹木見本園広場に立ち寄り、そこでも各種樹皮の違いを再確認し、冬場の常緑樹、落葉樹、針葉樹等の違いを感じて頂いた。

最後に四阿周辺にてアンケートや感想を頂いたが、一部の参加者から「冬でも見方を変えれば、いろいろな観察が出来て、面白いですね。冬の近所での散歩が楽しくなりそうです」と言って頂いた事が非常に嬉しかった。



ハクモクレンの花芽を観察